

2021年12月野菜概況

寒暖の変動が大きく、日本海側を中心に大雪。西日本太平洋側は高気圧の影響で多照だった。

12月は多くの品目で生育は順調に推移した。大根は千葉・神奈川産で出荷調整がなされるも全体量は潤沢。白菜やキャベツも潤沢な出回りが続いた。馬鈴薯・玉ねぎは北海道産が不作のため引続き高値推移。また、下旬は年末需要により多くの品目で相場は上昇傾向となった。12月の野菜総入荷量は123,111t(前年比96%)で平年よりやや少なく、価格239円(113%)は突出して安値だった前年を上回るも平年よりはやや安い。金額は29,467百万円(109%)で平年を1割下回った。

だいこんは千葉・神奈川産が12月から出荷調整となり下等級品の入荷が抑制された。それでも月上旬は数量潤沢で荷動きは鈍かった。中旬からは茨城産の切り上がりや年末に向けた需要増から荷動き好転。総入荷量は平年より1割近く少なく、価格60円(95%)は平年の3割近く安。にんじんは千葉・埼玉産が順調に入荷。月上旬は全体量十分で荷動き鈍かったが、中旬からは年末に向けた需要増から荷動き好転。総入荷量は平年並み、価格103円(90%)は平年の2割安。

はくさいは茨城産が順調に入荷。需要はありながらも数量の多さがそれを上回り月を通して荷動きは鈍かった。総入荷量は平年並みながら、価格34円(113%)は平年の4割以上安。キャベツは千葉・愛知産を中心に作柄良く順調に入荷。月後半は低気温での生育停滞や年末需要で相場は持ち上がるも、安値基調は変わらず。総入荷量は平年並み、価格56円(89%)は平年の4割安。ほうれんそうは群馬・埼玉等、関東産が前月は潤沢な出回りだったが12月は出荷ピーク過ぎ数量は落ち着いた。値頃感あり荷動きはまずまず良好も全体量多く、年末需要からの相場上昇は例年ほどではなかった。総入荷量は平年よりわずかに多く、価格457円(108%)は平年の1割以上安。ねぎは埼玉・千葉・茨城産が生育良く太物傾向で順調な入荷。需要はありながらも全体量は十分で安値が続いた。下旬は年末需要で相場は上昇した。総入荷量は平年並み、価格260円(79%)は平年の2割近く安。レタスは静岡・兵庫・長崎産中心の出回りで月上旬は順調に入荷。中旬以降は冷え込みや10月の雨で定植が少ない部分からの出荷となり数量減少。クリスマス・年末需要も絡み相場は上昇した。総入荷量は平年より1割少なく、価格182円(133%)は平年の1割以上安。

きゅうりは宮崎・高知産を中心に安定的な入荷。年末には若干相場が持ち上がるも、月を通して荷動きは鈍く安値推移。総入荷量は平年より1割近く多く、価格334円(97%)は平年の3割安。なす類は高知・福岡産が順調に入荷。月後半は気温低下により減少する場面はあれど、需要は落ち着いており荷動き鈍い。総入荷量は平年よりやや多く、価格444円(95%)は平年より1割以上安。トマトは熊本・栃木・愛知産の出回りで前月は全体量が少なかったが12月は増量に向かい相場は下げ傾向。熊本産は裂果が治まるも黄化葉巻病の影響は残り増量は限定的。総入荷量は平年よりやや少なく、価格452円(132%)は平年並み。ピーマンは茨城産の秋作が終盤となり減少。高知・宮崎産は順調に入荷。前月に続き荷動きの鈍い状況が続いた。総入荷量は平年より1割多く、価格356円(98%)は平年より2割以上安。

ばれいしょ類は北海道産、長崎産ともに干ばつの影響で小玉傾向。高値のため荷動きは鈍いが全体量の少なさから不足感あり。中旬からは年末年始に向けた在庫確保の動きから引合いが強まった。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格214円(151%)は平年より6割近く高い。たまねぎは北海道産が夏期の高温・干ばつにより小玉傾向。高値のため荷動きは鈍いが数量の少なさから相場は高値推移。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格182円(239%)は平年の倍となる水準。

【輸入野菜】ばれいしょは輸入時期が国産の端境となる2～7月に限定されていたが、前年から通年輸入が解禁されたこと、本年は国産が不作なことからアメリカ産の輸入量がゼロだった前年比で純増。たまねぎは国産が不作なことから、中国産を中心に前年比で大幅増。一方、にんじんはコロナ禍で外食需要が減退する中、国産の価格が前年を下回ったことから中国産を中心に輸入量は前年比大幅減。ねぎも同要因により中国産の輸入量が前年比減。